

第3章 生物多様性戦略の目標と施策

3-1 基本理念と目標

1. 戰略の期間

本戦略の目標期間を、90年間（2100年目標）に設定します。90年は、1世代を30年と考えると3世代分に相当します。つまり、本戦略の運用は、現在佐渡で生活している人に加え、今生まれつつある子供たちとその孫の代に至るまでの約束を意味します。

2. 基本理念と将来像

佐渡の豊かな自然や文化を保全・再生し、佐渡で育まれた多くの生きものと私たちが共生する環境を後世に渡って継承していくため、本戦略の基本理念を「**生物多様性が育む佐渡の豊かな自然と暮らしを保全・再生する**」に設定します。また、本戦略の推進にあたりキャッチコピーを「**佐渡でふれあういのちのつながり～人とトキが暮らす島を孫の世代へ～**」に設定します。

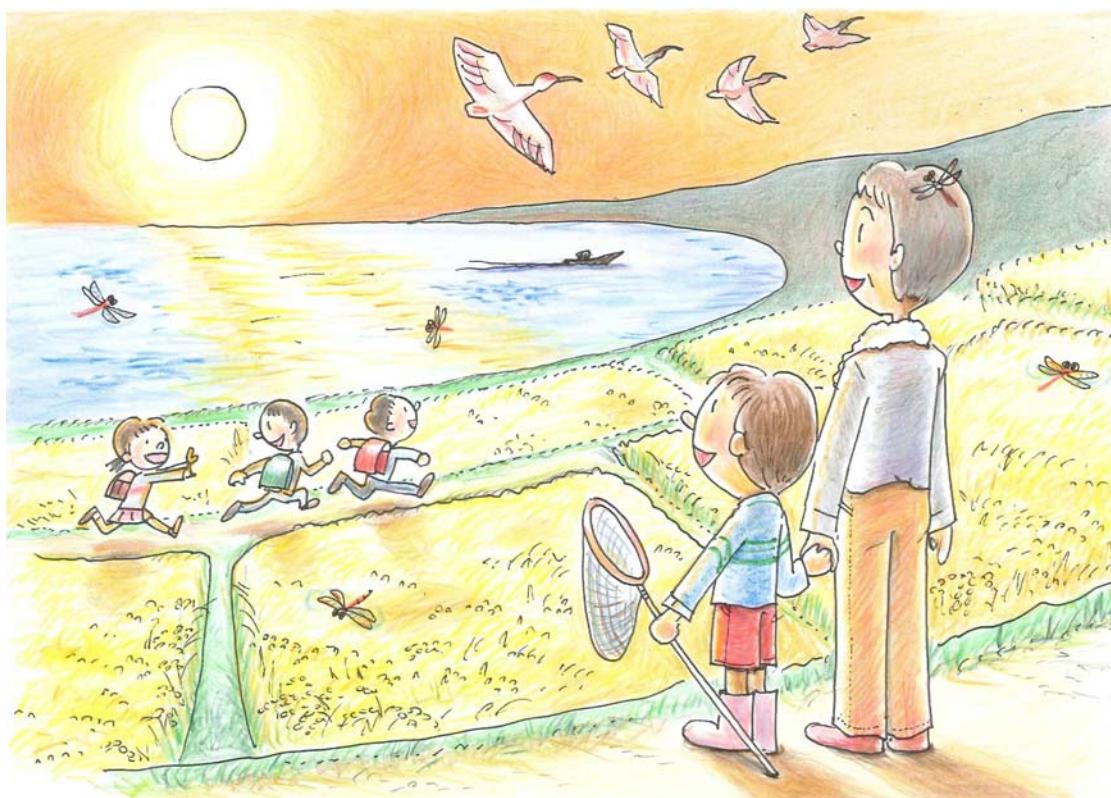
◇ 基本理念 ◇

生物多様性が育む佐渡の豊かな自然と暮らしを保全・再生する

◇ キャッチコピー ◇

佐渡でふれあういのちのつながり

～人とトキが暮らす島を孫の世代へ～



3. 基本目標

佐渡で暮らす私たちと多くの生きものが共生する環境は、長きに渡り培われてきた豊かな自然、歴史、文化について市民一人ひとりが「**知る・守る・使う**」ことによって、保全・再生されるものです。この「**知る・守る・使う**」に対応した3つの基本目標を設定し、基本理念の実現を目指します。

基本理念 生物多様性が育む佐渡の豊かな自然と暮らしを保全・再生する

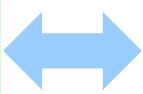


基本目標1【佐渡を知る】佐渡の生物多様性豊かな環境を市民一人ひとりが理解する



基本目標2【佐渡を守る】

生物多様性の損失を食い止め
佐渡本来の生態系を回復する



基本目標3【佐渡を使う】

生物多様性の恵みを持続的に
享受する地域社会を構築する



図 3-1 長期目標のイメージ

基本目標1【佐渡を知る】

佐渡の生物多様性豊かな環境を市民一人ひとりが理解する

私たちは、生態系という大きな枠組みの中で、健康で快適な生活を営み、豊かな環境を享受することにだけにとらわれることなく、自然から多くの恩恵を受けていることを自覚することが必要です。

佐渡で暮らす私たちも生態系を構成する構成員であり、私たちが生存する基盤を生物多様性豊かな環境が支えていることを認識し直さなければなりません。

将来に渡って佐渡の生物多様性豊かな環境を保全・再生していくためには、まず、市民一人ひとりが佐渡の環境について十分理解し、後生に渡って継承していくことが必要です。

基本目標2【佐渡を守る】

生物多様性の損失を食い止め佐渡本来の生態系を回復する

高度経済成長期から現代まで、私たちは生活の安全性や効率化のもとに様々な開発を進めてきました。結果、佐渡各地の自然環境に依存し生息していた在来の生物は棲みかを失い、その個体数は減少してきています。また、東日本大震災による自然の脅威のもとには私たちがこれまで整備してきた社会基盤は脆弱であったことは記憶に新しいものです。今後は、生態系への十分な配慮がなされないまま進められてきた開発から、真の意味で生物との共生を図る整備を進めなくてはなりません。

一方、佐渡には本来生息・生育していなかった生物が本土側から持ち込まれ、佐渡固有の生物相と生態系に対する大きな脅威となっています。今後被害がより一層深刻化する前に、適切な対策を実施し、生物多様性の損失を食い止めなければいけません。

基本目標3【佐渡を使う】

生物多様性の恵みを持続的に享受する地域社会を構築する

佐渡はGIAHS（世界農業遺産）に認定されました。認定を受けた背景には、佐渡全体で取組みを推進している生物多様性保全を重視した農業システム（生きものを育む農法）や、その里地・里山の美しい自然景観のみならず、佐渡の農業振興と密接に関係のある佐渡金銀山の歴史と、農神事として各地域で受け継がれてきた伝統芸能や多彩な文化があり、それらを育んできた集落・人の活動などを含めた世界に誇れる多様な地域資源があります。

これら佐渡におけるGIAHSを長期的に保全し次世代へ継承していくためには、持続発展的な農業農村の活性化が最重要課題となっています。近年人口は年間1,000人程度減少し、さらに限界集落の問題も顕在化するなど、集落機能を維持・保全することが困難になりつつあります。このような中、佐渡で育まれる生物多様性の恵みを持続的に享受しながら、活力ある経済・社会活動を実践し、若者が定住・定着できる社会づくりを行っていくことが現代の私たちに求められています。

人と自然の共生を目指す新たなGIAHS



人とトキが暮らす島

～持続可能な「食」と「命」を育む農業システム～



図3-2 佐渡版GIAHSのイメージ図

3-2 基本目標の実現に向けた施策の展開方向

基本目標の実現に向け、今後10年間で積極的に推進する施策の展開方向及び、具体的な施策内容を定めます。

■基本理念

生物多様性が育む佐渡の豊かな自然と暮らしを保全・再生する

■基本目標1【佐渡を知る】

→ 佐渡の生物多様性豊かな環境を市民一人ひとりが理解する

- 施策の展開方向
- 生物多様性に対する市民理解の促進
 - 組織・団体間のネットワークの構築
 - 企業CSR活動の参画促進
 - 大学等との連携による人材育成の促進

■基本目標2【佐渡を守る】

→ 生物多様性の損失を食い止め佐渡本来の生態系を回復する

- 施策の展開方向
- 在来種の保全・保護
 - 生態系に悪影響を及ぼす生物への対応強化
 - 多様な生物が生息・生育できる環境の保全・再生

■基本目標3【佐渡を使う】

→ 生物多様性の恵みを持続的に享受する地域社会を構築する

- 施策の展開方向
- 環境と経済が好循環する産業の育成
 - 環境の負荷の少ない循環型社会づくりの促進

1.『佐渡の生物多様性豊かな環境を市民一人ひとりが理解する』ための施策の展開方向

①生物多様性に対する市民理解の促進

「生きもの調査の日」の宣言や佐渡 Kids 生きもの調査隊の活動など、多くの市民が参画し、自分たちの住む環境を理解する取組みが活発になってきています。このような活動をより一層促進すると共に、生物多様性に対する充実した市民の学びの場（佐渡学会等）も整備していきます。

また、佐渡には世界に誇る豊かな自然・環境・歴史・文化・伝統芸能などの地域資源が存在しているものの、地域資源を市民並びに来訪者に説明する人材が不足していることから、ガイド等の育成が急務となっています。

今後とも環境再生を支える多様なリーダーの育成を図るため、生物多様性保全を中心とした自然・環境・歴史・文化・伝統芸能の保全・再生活動（生物多様性保全活動事業等）の推進を図ります。

具体的な施策

- ・佐渡学会の開設
- ・生物多様性保全活動事業の創設
- ・市民環境大学講座の継続
- ・佐渡市「生きもの調査の日」の継続
- ・佐渡 Kids 生きもの調査隊の活動推進
- ・生物多様性学校教育職員派遣の促進
- ・エコツアーガイド・インストラクターの育成

「生きもの調査の日」宣言
6月第2日曜日、8月第1日曜日に全島で実施



農家だけではなく、子どもたちや都市住民も参画

都市との交流

トキの野生復帰が小さな「命」に目を向ける仕組みに

環境教育

図 3-3 佐渡市生きもの調査の日

佐渡市生きもの調査の日宣言

「私はトキの野生復帰という国家プロジェクトに、産官学と市民の連携のもと、トキと人が共生できる島づくりを進めてまいりました。一度絶滅したトキが再び暮らせる環境を取り戻す試みは、人類が直面している生物多様性の危機に正面から向き合い、小さな命を育む」とからトキという大型の鳥類を再生させる取り組みであり、全世界が注目する生態系再生への挑戦であります。

「これは豊かさを求める人間によつて失われた自然を私たち人間の力で取り戻すことであり、人と自然が共存する豊かな島を作る」とが、野生のトキが最後の生息地に選んだ佐渡の使命であります。

ここに、私たち佐渡市民は6月第二日曜日、8月第一日曜日を佐渡市生きもの調査の日と定め、多様な生きものへの温かい視点から、トキの野性定着や人が自然と豊かに共生できる社会を実現することを宣言します。

平成二十二年六月十三日

佐渡市長 高野 宏一郎

図 3-4 佐渡市生きもの調査の日宣言



写真 3-1 市民環境大学講座



写真 3-2 佐渡 Kids 生きもの調査隊

②組織・団体間のネットワークの構築

NPO団体等のボランティア組織、大学、企業など、多様な組織・団体が佐渡の生物多様性保全に関わっています。しかし、情報共有・交換の機会がほとんどなく、十分な連携が図られているとは言い難い状況です。今後は、活動組織・団体間の横断的な情報交換を行う場を設置し、かつ、活動・研究成果等の情報の共有化を図ります。

具体的な施策

- ・生物多様性市民会議の設置
- ・組織・団体間の情報共有・交換の場の整備



写真3-3 トキの野生復帰に係る農業・農地戦略検討会議

③企業C S R活動の参画促進

佐渡を環境再生のフィールドとして活動している企業が増えてきており、休耕田のビオトープ整備や森林再生事業など様々な取組みが進められています。今後も佐渡を環境再生のフィールドとして活動する企業の受入れや、地元事業者の環境整備事業への参画を促進します。

具体的な施策

- ・企業C S R活動の受入れ促進
- ・地元事業者による環境整備事業の促進



写真3-4 企業C S R活動による休耕田のビオトープ整備



トピック①：佐渡が目指す企業CSR活動と環境再生の連携とは？

○様々な支援を環境再生に活用

朱鷺と暮らす郷米など商品の売り上げの一部や、多くの企業や個人の方々から頂いた「佐渡市トキ環境整備基金」「新潟県トキ保護募金」を佐渡の自然再生活動に活かしています。佐渡市ではこれまでに寄付贈呈式の実施や感謝状の贈呈、トキ交流会館、トキファンクラブ等における情報発信を行ってきました。これからも自然環境の再生や生物多様性保全などの活動に活用していきます。



贈呈式



ビオトープの整備事業



水田魚道の設置



子供の環境学習

○企業の支援による森、田んぼの再生

・佐渡市トキの森事業

支援金を、人工林の間伐や枝打ちを行いトキの営巣木となる木を保全する事業の経費に充当（10ha の森林整備）し、トキが暮らせる森づくりを進めています。また資金の提供だけではなく、枝打ち、下草刈りなど環境再生活動の受入れも行います。

・環境再生に向けた提携

企業によるビオトープ整備や、生きものを育む田んぼ作り、棚田オーナー制度への参加等、生物多様性保全への取組みが実現しており、実際に参画した企業名が表示されています。



トキの森事業

④大学等との連携による人材育成の促進

大学などの研究・教育機関との連携により、卓越した知識と若い力を佐渡に呼び込み、新しい環境再生を促進します。また、市民への多様な環境教育に繋がる機会・場の整備を行っていきます。

具体的な施策

- ・新潟大学・東京農業大学・相模女子大学との包括連携協定の継続
- ・新潟大学トキ自然再生学研究センターの活動支援
- ・新潟大学寄附講座の継続
- ・大学発佐渡夢プロジェクトの継続
- ・朱鷺の島環境再生リーダー養成ユニット事業の活用促進
- ・生物多様性学術研究等奨励事業の継続
- ・着地型ツーリズム整備事業（ツアープラン検証事業）の継続
- ・佐渡島インターンシップ事業の継続
- ・佐渡学セミナーの継続
- ・大学と市民の交流拠点・機会の整備促進



写真 3-5 生物多様性に関するシンポジウムの開催



写真 3-6 朱鷺の島環境再生リーダー養成ユニット事業

2. 『生物多様性の損失を食い止め佐渡本来の生態系を回復する』ための施策の展開方向

①在来種の保全・保護

a) 希少生物の現状把握と保護

佐渡は多様な自然環境を有しており、いくつかの種は島内でもごく限られた地域にしか生息・生育していません。また、離島で隔離された環境であるため、独自の進化をとげた固有の生物種も数多く生息しています。このような生物は、生息地が破壊されてしまった場合、佐渡そして地球上から絶滅してしまいます。そのため、佐渡市レッドデータブックを作成し、絶滅の危機に瀕している野生生物種の状況を把握すると共に、適切な保全・保護策によって種を絶滅させないことが必要です。

具体的な施策

- ・佐渡市レッドデータブックの作成と対象種の保護
(希少生物の生息・生育調査の実施、地域種・在来種の保全・保護)
- ・生物多様性保全ハンドブックの作成

b) 希少生物の保全・保護体制の構築

佐渡で自生する貴重な生物の盗掘があとを絶たない中、盗掘防止策を強化することが求められています。また、地域の貴重な生物を適切に保全・保護するための体制を構築し、地域の人々が生物を保全することの大切さを感じることも重要です。そのため生きもの観察会の実施や、積極的に希少生物の保全・保護活動を実施する集落・団体への支援を行います。

具体的な施策

- ・生物盗掘防止策の促進
- ・生きもの観察会の実施
- ・生物多様性保全活動事業の創設（再掲）

c) 生物多様性支援システムの運用促進

トキの野生復帰や生物多様性豊かな環境再生に役立たせる「生物多様性支援システム」を開発しました。本システムには放鳥トキの生息情報やトキの主要な餌生物の生息状況、市民生きもの調査の結果などが地理情報システム上で管理されています。また、佐渡全島の水田一筆単位（約10万筆）の農地の管理状況（耕作者情報や認証米の取組みなど）や環境条件（江のある水田や暗渠排水の有無など）も管理されています。

今後は本システムの運用促進を目指し、様々な環境再生活動の実施による効果を把握できるようにすることや、モニタリング調査の結果等に基づく事後の検証に役立つよう開発を進めます。

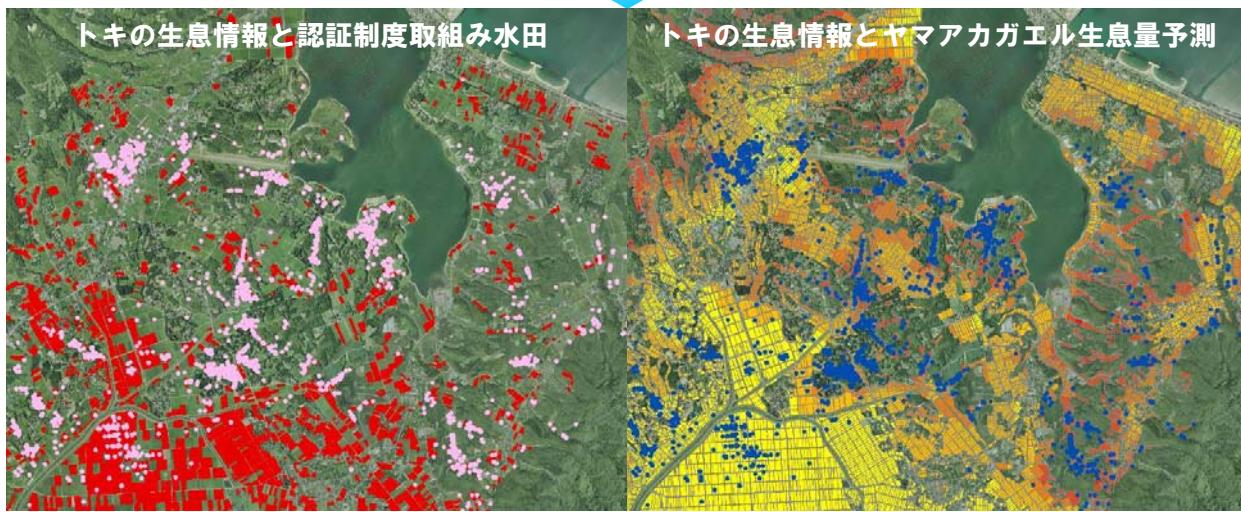
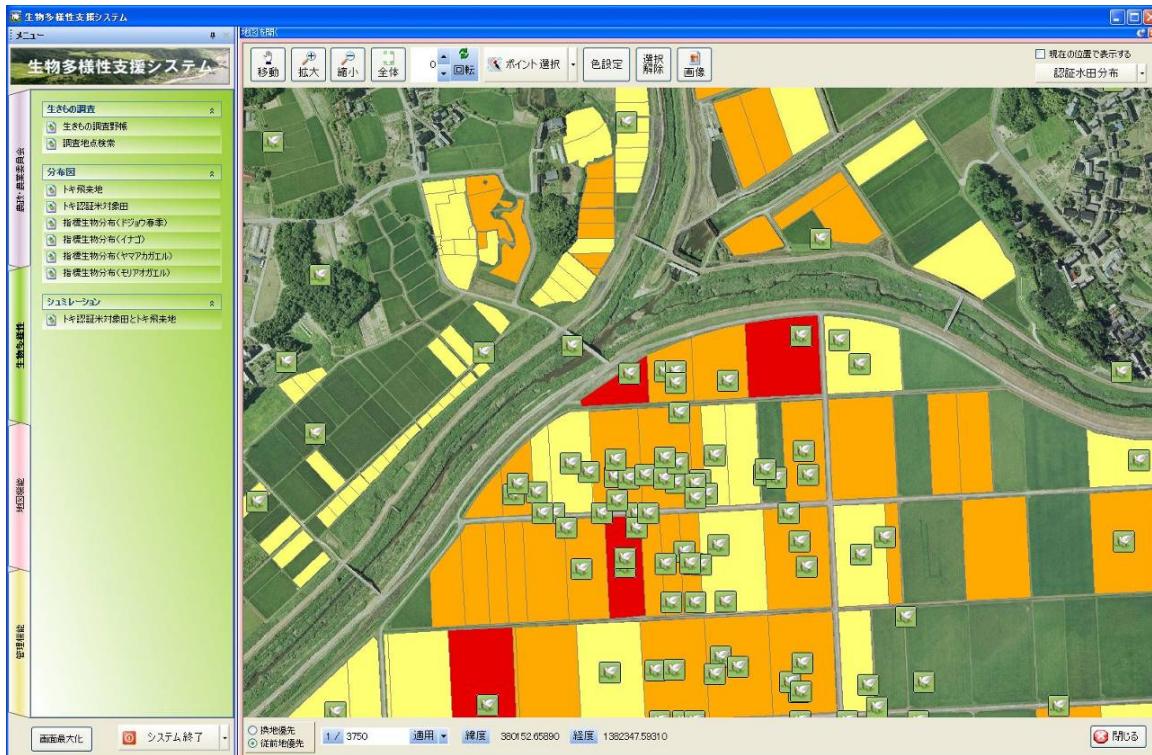
具体的な施策

- ・生物多様性支援システムの運用促進



トピック②：生物多様性支援システムとは？

- パソコン上で水田の耕作情報や生物の生息情報を一元的に管理するシステムを「生物多様性支援システム」と呼んでいます。
- システム上に認証米の取組みとトキの生息情報を重ね合わせ、トキの反応状況を把握することも出来ます。また、トキの主要な餌生物の生息量を予測したデータも含まれているため、どこで江や水田魚道の設置、ふゆみずたんぼをした方が効果的なかを判断する時に役立ちます。
- さらに、市民の方々がどこでビオトープを整備した方がいいのかなど、様々な環境保全活動に役立てることも可能です。





トピック③：生物多様性支援システムは何に役立てたらいいの？

例1：耕作放棄地にトキがたくさん来てるよ！みんなでトキのためにビオトップにしてみよう！！



例2：田んぼの脇の水路にドジョウやフナがたくさんいるよ！みんなで水田魚道を設置してみよう！！



生きものの生息情報をもとにみんなで活動してみましょう！！



例3：田んぼの中に生きものがたくさんいるよ！みんなで江を設置してみよう！！



例4：ヤマアカガエルがたくさんいるよ！みんなでふゆみずたんぼや水路のふたを設置してみよう！！



②生態系に悪影響を及ぼす生物への対応強化

a) 特定外来生物の分布拡大の抑制強化

近年ダムやため池を中心にオオクチバスやブルーギルが放流され、在来の生物に大きな影響を与えています。また、急速にセイタカアワダチソウやオオキンケイギクなどの特定外来生物（植物）の分布が拡大しています。このような佐渡の生態系に悪影響を及ぼす生物の積極的な駆除・除去活動を促進します。

具体的な施策

- ・特定外来生物の生息・生育調査の実施
- ・特定外来生物の駆除・除去活動の継続
- ・市民や事業者へ特定外来生物に関する情報の提供



写真 3-7 ボランティアによる外来魚の駆除活動

b) 生物による食害被害の抑制強化

野生鳥獣による農作物の被害が増加しつつあり、特にタヌキによる野菜や稻、カラスによる果樹や稻の食害被害が増加しています。また、タヌキは、農作物の食害被害を引き起こすだけでなく外来生物として在来生態系に影響を及ぼすことから、様々な被害の拡大を抑制するよう捕獲・駆除を行います。

具体的な施策

- ・食害被害の調査の実施
- ・生態系に悪影響を与える生物の適切な駆除・防除



写真 3-8 農作物の食害被害

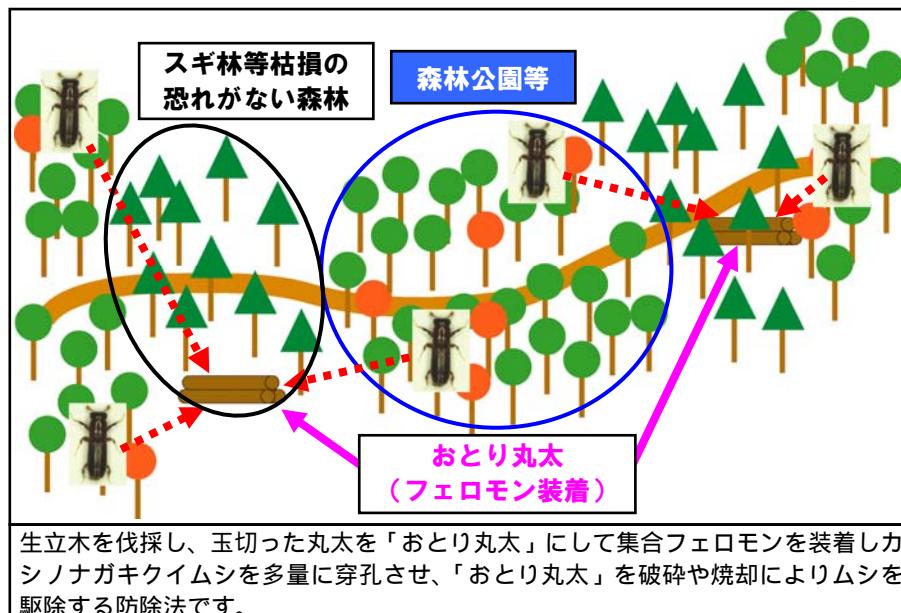
③多様な生物が生息・生育できる環境の保全・再生

a) 森林環境の適切な保全・再生

森林面積が約74%を占め、森林資源が豊富に存在する中、人工林の多くが適切な管理・伐採がなされず放置されています。また、松枯れ・ナラ枯れの被害は増加しています。さらに生活様式の変化の中で、木材等の林産物の利用が減少することにより、里山の環境悪化が島内各地で見られます。今後は、森林の適切な管理・整備を促進します。

具体的な施策

- ・木材の利用促進
- ・しいたけ栽培の促進
- ・松枯れ・ナラ枯れ防除の促進
- ・里山資源の利活用の推進
- ・トキの森整備事業（カーボンオフセット）の推進



参考資料：新潟県農林水産部治山課

図3-5 ナラ枯れ防除方法の一例（おとり丸太法）

b) 多自然川づくりによる河川整備の推進

これまでの治水・利水を目的とした河川の護岸整備や砂防ダムの設置などにより、もともとの河川環境に依存して生息・生育する生物が姿を消しつつあります。また、市民が川で魚とりをするなど、川を利用することが少なくなっています。洪水や氾濫などの災害から私たちの生命を守ることはもとより、河川の生物多様性についても目を向けなければなりません。今後は、治水や利水だけでなく、環境へ十分に配慮した多自然川づくりや市民が親しめる河川整備を進めています。

具体的な施策

- ・河川・湖沼における水質調査の実施
- ・生物モニタリング調査の実施
- ・多自然川づくりの推進

目標**トキの野生復帰に向けた川づくり**

野生のトキが佐渡島の大空を舞っていた昭和30年頃の河川の多様な自然の再生・創出をめざします。
また、流域内での自然再生の取り組みにも参画します。

トキの餌場を確保する川づくり

- 湿地・浅場を保全・創出します

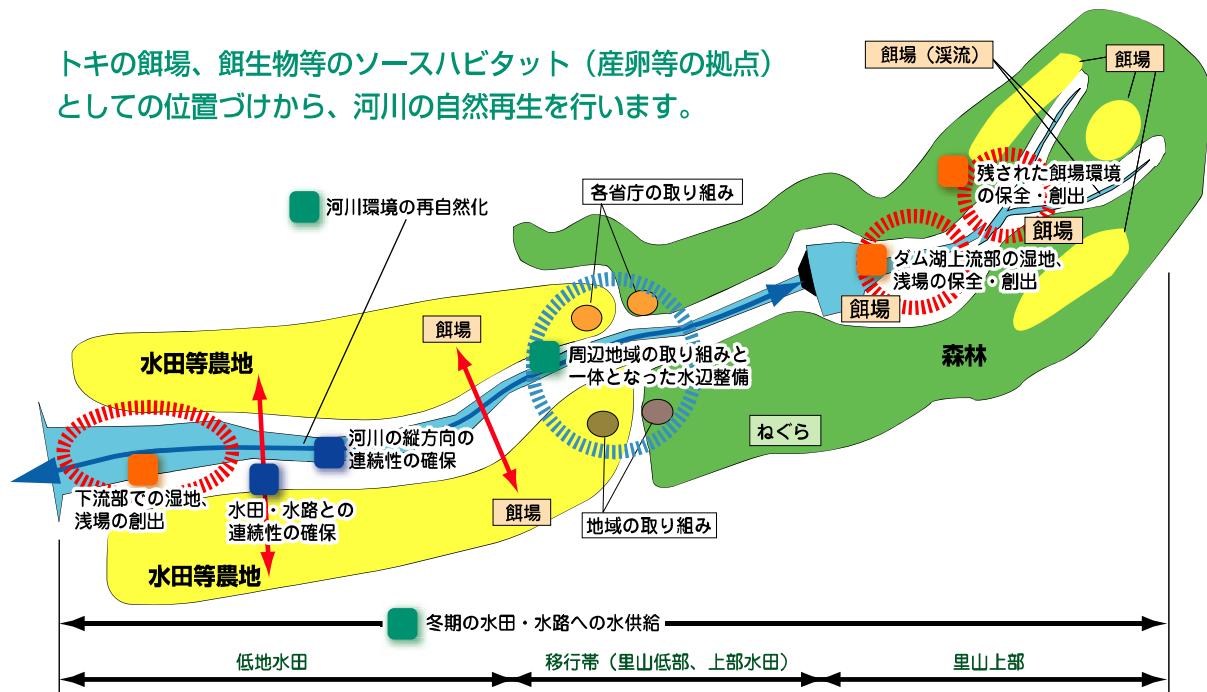
トキの餌生物等の多様な生息環境を確保する川づくり

- 河川の自然再生を図ります
- 水田・水路における冬期の餌生物等の生息環境を保全します

トキの餌生物等の移動環境を確保する川づくり

- 河川の縦断方向の連続性を確保します
- 河川と水田・水路との連続性を確保します

トキの餌場、餌生物等のソースハビタット（産卵等の拠点）としての位置づけから、河川の自然再生を行います。



トキの餌場は、水量が少なく水深の浅い(10cm程度)場所で、背の高い植生が繁茂していないところです。現在、トキの餌場となるような浅場のある川づくりや、餌となる生物が増えそうな川づくりを進めています。

【トキの餌となる主な生物】

資料提供：新潟県佐渡地域振興局

図 3-6 佐渡で実施する多自然川づくり

c) 生態系を支える農地の保全・再生

トキは採餌行動の大半を水田や草地で行っています。特に水田は水生生物の成育環境として貴重であり、さらにそれら生物を捕食する鳥類などが生息することにより地域特有の生態系が維持・保全されています。しかし、ほ場整備に伴う水田の乾田化や、増加の一途をたどる耕作放棄地など、水田を中心とした生物多様性豊かな環境が悪化してきています。今後は、佐渡の豊かな生態系に配慮した農地の保全・再生を促進します。

具体的な施策

- ・環境保全型農業の促進
- ・生態系に配慮した農地整備の促進
- ・河川と農業用水路の落差解消

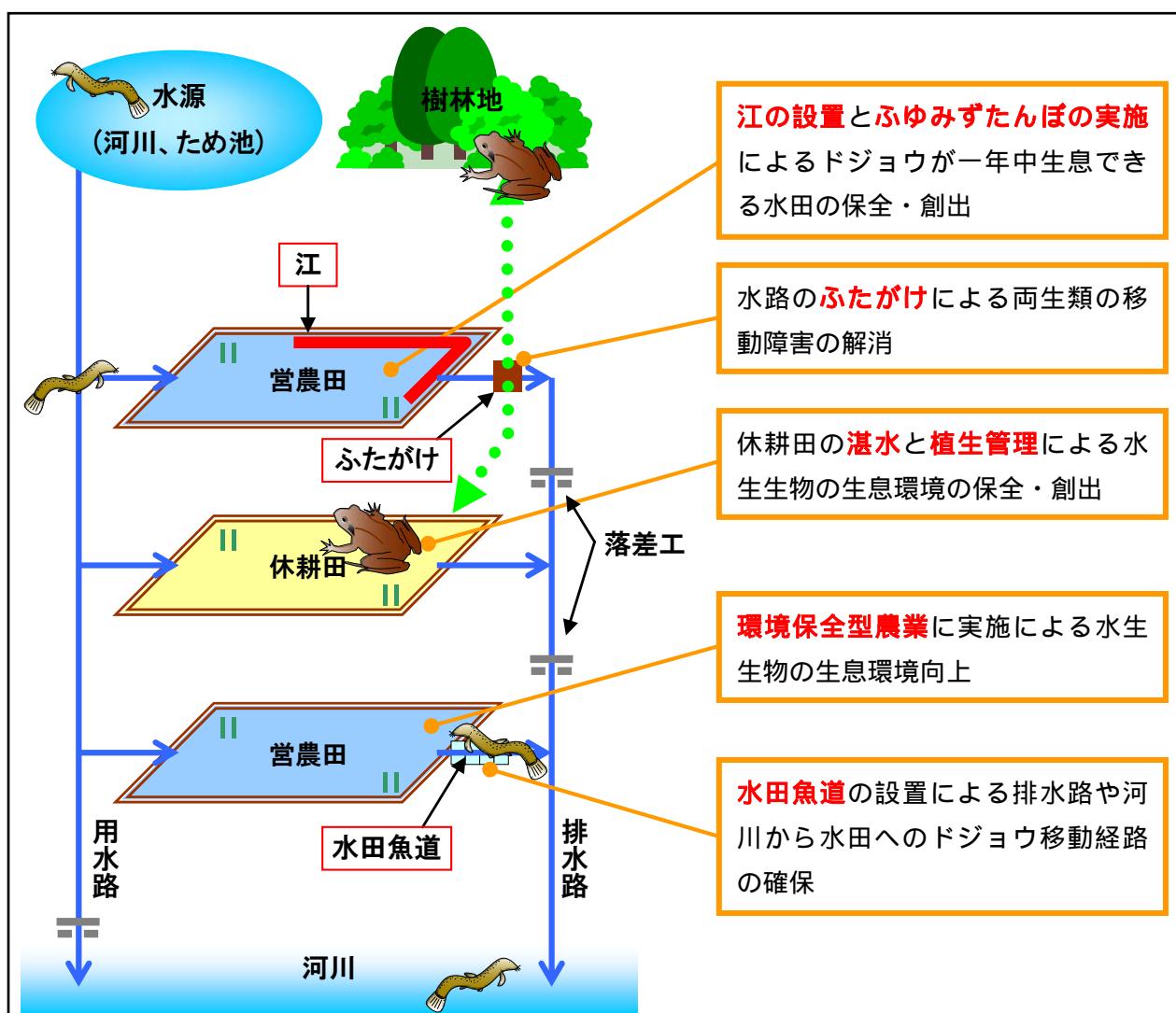


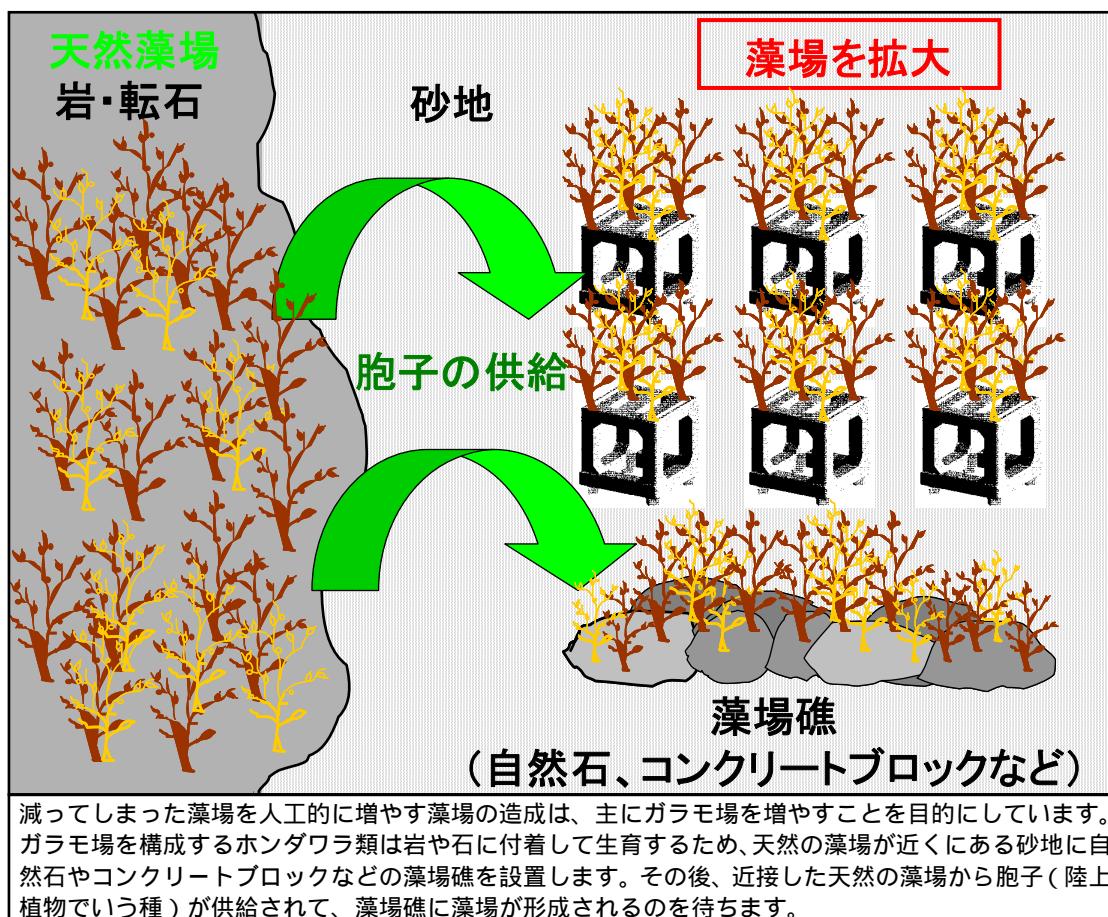
図 3-7 生態系に配慮した農地整備 資料提供：農林水産省北陸農政局

d) 里海の適切な保全・管理

河川の護岸整備や漁港の整備、海岸の埋め立てなど様々な要因によって生物の生息・生育環境が消失したり、磯焼け被害が発生しています。佐渡の豊かな漁場を保全・再生するため、環境へ配慮した開発を進めると共に、藻場の造成・回復を図っていきます。

具体的な施策

- ・環境影響評価に基づく開発事業の徹底
- ・藻場の造成・回復事業の促進
- ・磯焼け被害の調査と対策実施



資料提供：新潟県水産海洋研究所佐渡水産技術センター

図 3-8 藻場の造成方法の一例



写真提供：新潟県水産海洋研究所佐渡水産技術センター

写真 3-9 造成した藻場に集まる魚の群れ

e) 生態系ネットワークに配慮した自然環境の保全・再生

洋上にある佐渡は、どの地域も森と海は河川や水路を通じて密接に結びつき、生態系ネットワークが維持・形成されています。よって個々の流域の生態系ネットワークに配慮し、森・川・里・海の連続性を確保していく必要があります。

具体的な施策

- ・森・川・里・海の連携を重視した生態系調査の実施
- ・多自然川づくりの推進（再掲）
- ・河川と農業用水路の落差解消（再掲）

f) 環境保全・美化活動の実施

地域固有の貴重な生物の保全・保護を目的とした活動を支援し、生物多様性保全に対する理解と協力を深めます。

廃棄物の不法投棄や放置自動車、海岸漂着ゴミ、廃棄物の野焼きはあとを絶たない状況であり、防止体制を強化すると共にゴミの撤去を推進します。

具体的な施策

- ・不法投棄監視員を中心とした地域による防止体制の強化
- ・廃棄物の撤去の推進
- ・海岸クリーンアップ・大作戦の継続的な実施



写真 3-10 不法投棄監視員によるゴミの撤去



写真 3-11 海岸クリーンアップ・大作戦

3.『生物多様性の恵みを持続的に享受する地域社会を構築する』ための施策の展開方向

①環境と経済が好循環する産業の育成

a) 佐渡環境ブランド化の促進

佐渡の生物多様性を保全・再生していくには、農林水産業が持続的・永続的に営まれ、環境と調和し続けていかなければなりません。朱鷺と暮らす郷づくり認証米に代表されるように、減農薬・減化学肥料による環境負荷の低減と、生物多様性に配慮した施設等の整備により、佐渡産農林水産物の高付加価値化を促進する必要があります。これら取組みを強化しつつ、様々な佐渡産農林水産物のブランド化を促進します。

具体的な施策

- ・朱鷺と暮らす郷づくり認証米の取組促進
- ・棚田米認証制度の創設
- ・佐渡版戸別所得補償制度の継続
- ・おけさ柿、佐渡産しいたけの認証制度の創設
- ・佐渡特産の地域野菜品種の栽培促進
- ・農林水産物のブランド化の推進と販売促進



持続的・永続的に営まれる農林水産業

農林水産業が守る佐渡の里山・里海・生物多様性



里 海

森と海のつながり



里 山

生物多様性

図 3-9 佐渡の農林水産業が守る環境



トピック④：多様な命を育む「朱鷺と暮らす認証米」とは？

2008（平成20）年から認定基準をクリアした佐渡米を市が認証する「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」により、生きものを育む農法に取組む農家は着実に増えています。

今後はさらなる取組みの推進と、新たなマーケットの開拓を支援していきます。

朱鷺と暮らす郷づくり認証制度認定基準

「生きものを育む農法」により栽培していること。（次ページ参照）

農薬、化学肥料を地域慣行比5割以上減らし栽培すること。

新潟県が認定するエコファーマーの認定を受けること。

土壤診断に基づいた土作り技術、化学農薬・化学肥料低減計画を新潟県から認定された安心安全な農業を実践する農家
生きもの調査を年2回実施すること。

認定基準とは別に、販売金額の一部を佐渡市環境整備基金へ寄付することが定められています。



写真提供：環境省

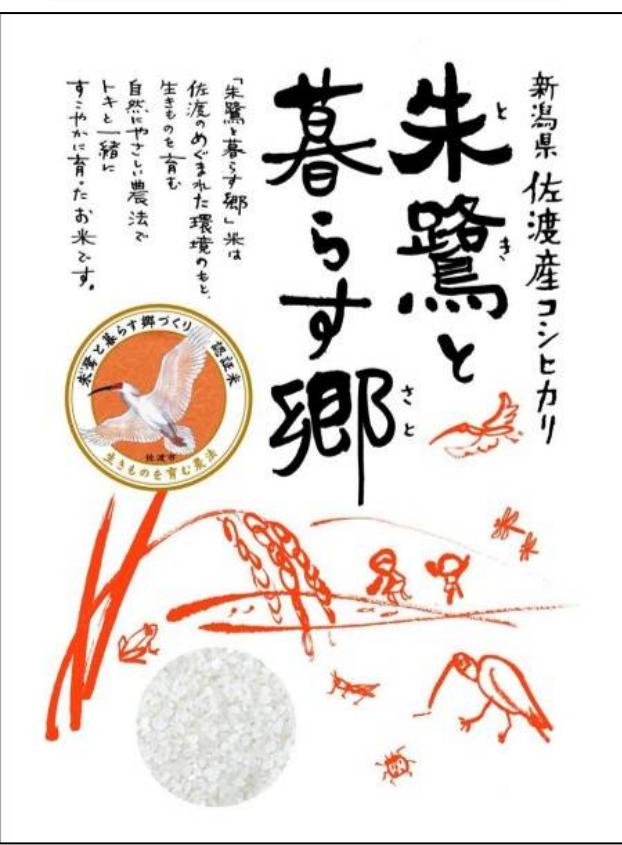


ドジョウ、カエルなど

多くの命がつながります

ユスリカの幼虫、イトミ
ミズ、昆虫類、節足動物、
イネ科の植物など

水田や湿地、ビオトープ





トピック⑤：佐渡で実践する「生きものを育む農法」とは？

1年を通して生物の生息できる環境を「生きものを育む農法」により創出しています。



冬

○ふゆみずたんぼの実施

ドジョウなどの越冬場所が作られると共に、イトミミズやユスリカなどのドジョウの餌となる生きものも増えます。また、雪が積もりにくいことから鳥たちの餌場となります。

春から秋

○江（水田内ビオトープ）の設置

水田は7月上旬に中干しという田んぼを干す作業を行います。そのため水生生物が減少しますが、江があることで田んぼが乾いたときの生きものの避難場所になります。

○水田魚道の設置

ほとんどの農業用排水路はU字溝になっています。そのためドジョウなどの水田を産卵場所とする魚類が遡上できなくなっています。そこで排水路と水田を水田魚道でつなげることにより、魚類の産卵・成育場所を確保します。

1年を通した取組み

○ビオトープの設置

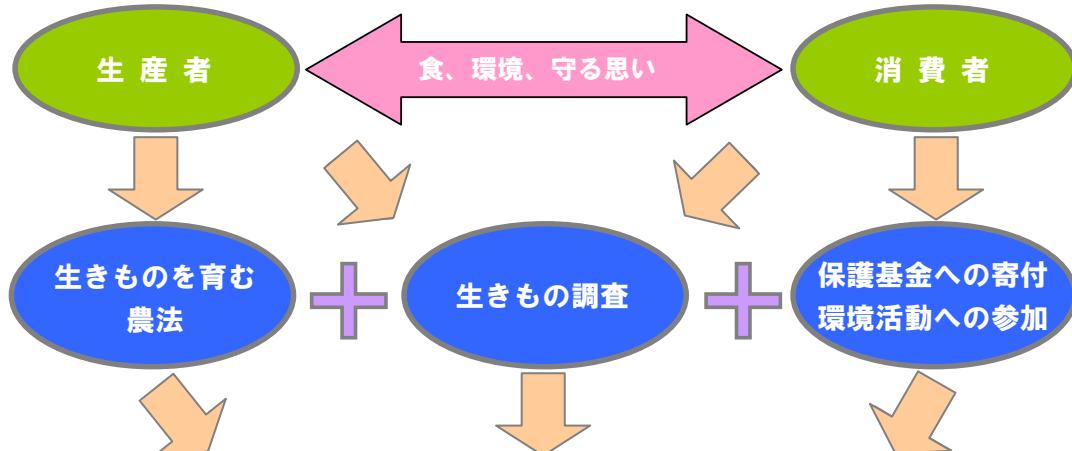
田んぼに隣接した休耕田に1年中水をため、生きものの生育場所を確保します。

○調整水田の活用

米をつくれない田んぼをビオトープとして活用します。7~9月稻の生長により、トキが水田に入ることができない時にも貴重な餌場となります。

朱鷺と暮らす郷づくりが守るものは

トキも暮らせる環境とは



b) GI AHSアクションプランの促進

佐渡は2011（平成23）年6月にGI AHS（世界農業遺産）に認定されました。認定された理由が下記の3点です。

- 1 農業生産システムに「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」を導入し、消費者と連携しながらこの制度を島全体に拡げていること。
- 2 生物多様性保全型農業と農業経済が連携し、持続的な環境保全体制を構築していること。
- 3 佐渡金山が風景と文化に大きな影響を与え、生物多様性と農業生産活動をはぐくむことによって、農村コミュニティを保全してきたこと。

この遺産は過去のものではなく、未来に繋げていくものであり、佐渡の未来を担う若い世代がいろいろな面で幸せに満たされる形に導いていくことが大切です。そのためGI AHSアクションプランに積極的に取組んでいきます。

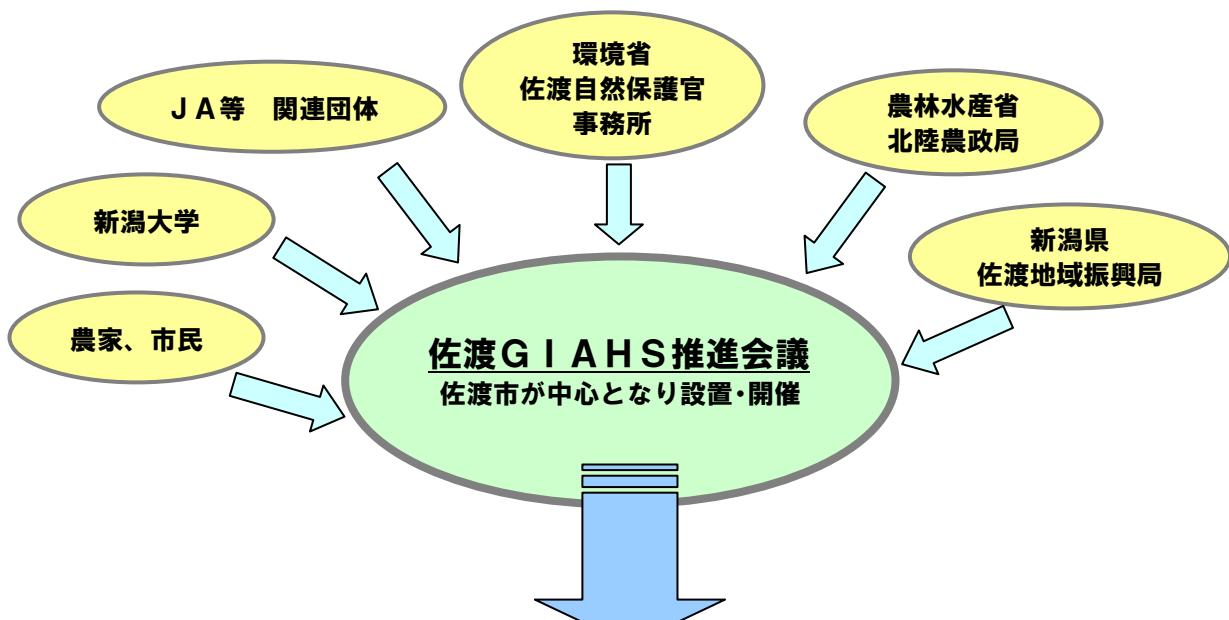


トピック⑥：GI AHSアクションプランとは？

GI AHSアクションプランでは、以下の4つのビジョンを掲げ、施策の推進を行っています。

- ① 持続可能な生物多様性保全システムの構築
- ② 環境を守り生物多様性を育む佐渡農業の振興
- ③ 豊かな農業と農村コミュニティから育まれた伝統文化や美しい自然環境・景観の保全
- ④ 佐渡の地域資源を活かした交流拡大

多様な主体と連携し、GI AHSアクションプランを推進していきます。



c) 地産地消の推進

佐渡は自然環境に恵まれ、山海の幸は豊富で、自給自足が可能な島といわれています。しかし、佐渡で消費されている食材のほとんどは島外から移入され、島内で生産できる農林水産物についても島外産が多くを占めているのが現状です。今後は、佐渡市地産地消推進計画の促進を図り、地産地消の推進による安全安心な食材で、安定した島内消費を促進する必要があります。

また、私たちの先人たちは、その時々に収穫できる食材や自然が与えてくれる木の実や沿岸の魚などの恵みを大切に利用して、貴重な食材を無駄なく使い切り、長く味わえるよう様々な加工を工夫してきたことは知られていますが、これまで佐渡で受け継がれてきた食文化や伝統料理の継承を今後も図ります。

具体的な施策

- ・消費者ニーズに対応した農林水産物の生産振興
- ・生産者と消費者を結ぶ交流並びに啓発促進
- ・店舗・直売所等における佐渡産農林水産物の利用促進
- ・学校・福祉施設等における佐渡産農林水産物の利用促進
- ・6次産業による地場産業の推進（農商工連携）
- ・食育の推進と佐渡の食文化や伝統料理の継承



写真 3-12 佐渡産食材を使った学校給食

d) 佐渡ツーリズムの促進

観光客が佐渡の豊かな自然や文化、地元の人とふれあうことによって、持続的なりピーターの増加、市内での消費拡大を図り、観光経済の活性化を目指します。

具体的な施策

- ・エコツアーガイド・インストラクターの育成（再掲）
- ・体験型農家民宿の開設支援
- ・交流活動をとおした農家直売体制の推進
- ・棚田オーナー制度の拡大
- ・佐渡金銀山の世界文化遺産登録の促進
- ・世界ジオパーク認定の促進

★トピック⑦：佐渡金銀山の世界文化遺産登録とは？

佐渡市は、佐渡金銀山の世界文化遺産登録に向けて、調査・研究や普及・啓発活動にさらに取り組んでいきます。それが結果的に交流人口の拡大やよりよい環境の創出になると考えます。



大立豊坑



道遊の割戸



砂金が採掘された虎丸山と笹川集落



完成時東洋一の規模であった北沢浮遊選鉱場跡

★トピック⑧：世界ジオパーク認定とは？

佐渡には、すばらしい自然と大地（ジオ）の宝物がたくさんあります。このような重要な地質・地形学的景観を保全し持続可能な観光や教育に役立てようとするものがジオツーリズムです。さらにその活動を通じて地域経済の発展につなげていくことも目的としています。

この自然の公園（パーク）をジオパークといい、近年、ジオツーリズムが注目を集めています。佐渡市は、世界ジオパーク認定をめざす準備を進めています。



七浦海岸夫婦岩

平根崎波蝕甌穴群
(ひらねざきはしょくおうけつぐん)

②環境負荷の少ない循環型社会づくりの促進

a) 自然エネルギーの利活用

太陽光発電等の自然エネルギーを効率的に利用し、また省エネルギー化を図ることで温室効果ガスの削減、環境負荷の低減を促進していく必要があります。

具体的な施策

- ・佐渡市地域新エネルギービジョンの促進
- ・耕作放棄地を活用した自然エネルギーの生成促進
- ・低炭素むらづくり事業の促進

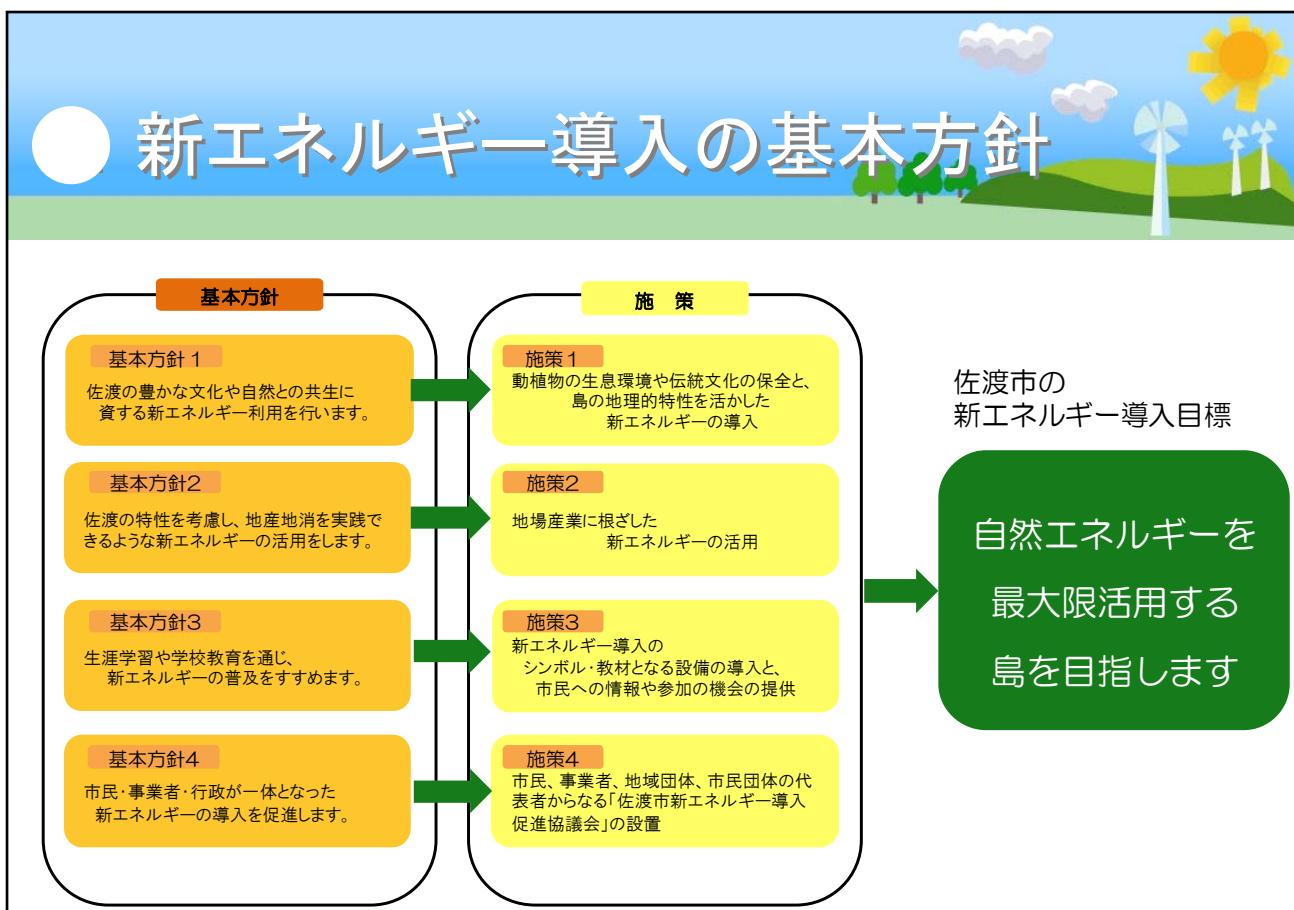


図 3-10 新エネルギー導入の基本方針



農機営農センター おけさ柿選果場
写真 3-13 太陽光発電の導入

b) バイオマス資源の活用推進

これまで利用があまり進まなかった廃棄物系バイオマスや木質系バイオマスなどについて、その有効利用を図り、生物多様性の新たな利活用方法を推進します。

具体的な施策

- ・佐渡市バイオマстаун構想の促進
- ・新たなバイオマス資源の発掘と利活用の推進



写真 3-14 木質ペレットの活用



写真 3-15 生ごみ堆肥（コンポスト）

c) 地球温暖化対策の実施

ここ 100 年で佐渡の平均気温は 1 度程度上昇しており、佐渡の生物多様性保全に向けて地球温暖化対策を強化していく必要があります。そのため佐渡市地球温暖化対策実行計画に基づき、温室効果ガスの削減に取組みます。

具体的な施策

- ・佐渡市地球温暖化対策実行計画の促進
- ・トキの森整備事業（カーボンオフセット）の推進（再掲）

3-3 生物多様性戦略に関わる数値目標

実施する施策に基づいて、生物多様性戦略に関わる数値目標を定めます。また、愛知目標の20の個別目標との関連について捉えます。

施策No.	指標	現状（H23年）	目標（H33年）	愛知目標との関連
基本目標1に関わる数値目標				
	生物多様性保全事業活動集落	0 集落	10 集落	目標 1, 18
	市民環境大学基礎講座修了者	247 人	600 人	目標 1
	生きもの調査実施者数	700 人	1,500 人	目標 1, 7
	Kids 生きもの調査隊	45 人	延べ 400 人	目標 1
	生物多様性に関する授業への職員派遣	4 校	全小中学校	目標 1
	トキガイド認定者数	61 人	150 人	目標 1
	生物調査インストラクター修了者	200 人	500 人	目標 1
	トキファンクラブ会員数	4,115 人	10,000 人	目標 1
基本目標2に関わる数値目標				
a	トキの野生生息羽数	47 羽 (H24.1)	60 羽 (H27)	目標 12
a	トキの野生生息世代	1 世代	3 世代	目標 12
a	マガノの生息羽数	25 羽	350 羽	目標 12
a	ため池外来生物の駆除	3 ケ所	延べ 30 ケ所	目標 9
b	鳥獣被害	6,650 千円	5,500 千円	目標 9
a	佐渡産材使用材積	234 m ³ (H22)	300 m ³ (H26)	目標 7
a	竹林整備面積（竹林整備モデル事業）	1ha	10ha	目標 5
c	佐渡市ビオトープ整備事業実施面積	220ha	520ha	目標 12
c	水田魚道の設置	50 基	延べ 200 基	目標 7
c	耕作放棄地	1,069ha	低減	目標 7
c	稻わら焼却面積	35ha	0ha	目標 7
d	藻場再生面積	0ha	5ha	目標 6
f	環境美化活動参加数	10,852 人 (H22)	14,500 人 (H26)	目標 1
基本目標3に関わる数値目標				
a	認証米に取組む農地面積割合	11.0% (H22)	14.8% (H26)	目標 7
a	エコファーマー認定者数	2,310 人	3,000 人	目標 7
c	学校給食での佐渡産野菜使用率	14.0 (H22)	20.0% (H26)	目標 7, 18
c	学校給食での佐渡産水産物使用率	12.4 (H22)	13.0% (H26)	目標 6, 18
d	トキ交流会館利用者数	17,562 人	25,000 人	目標 1, 12
d	トキの森公園来園者数	143,816 人	288,000 人	目標 1, 12
a	電気自動車等民間導入件数	10 件	200 件 (H32)	目標 15
a	太陽光発電導入件数	19 件 (補助件数)	一般 500 件 事業所 50 件 公共施設 50 件 (H32)	目標 15

3-4 生物多様性戦略に基づく佐渡の将来イメージ

